



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。折りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2019. 5月第606号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

2月のはじめに、3泊4日の「説教黙想セミナー」に参加してきた。富士山の麓の修道院に20名の牧師が集い、缶詰めで説教について学び合う。本人の眼の前で、その語った説教を参加者たちが批評し合う。そんな集まりに喜んで参加する牧師は、よほど自分に自信のある御仁か、はたまた自虐趣味の牧師に違いないと、最初は遠くで眺めていたが、終わってみたいなら、感動し立ち尽くしている自分がいた。それは、説教者として信徒の前に立ち、語ることに日々悩み格闘する同労者たちに出会えたからだけでもなく、その第1の黙想をはじめとする「説教黙想」の手法が、あなたがアシュラムの静聴と遠くないものであることが認識できたからでもなく、もちろん、突然開眼したかのよう

に説教の腕が上達したわけでもない。たった一つ、私が語る説教の中で聖書を読む時必ず、スリットと片方の足が前に出ることを指摘されたからだ。講師の友野富美子牧師は、もともと劇団で演劇をしていたそうだ。最初は聖書の朗読をそれぞれさせられたり、ストレッチ体操などの指導を受けたりと、それがどうして説教黙想と関係するのか、深くは理解できていなかった。ただ人前で話すスピーチをいかに上手にするかという、テク

ニクのことかと半ば馬鹿にしていたのだが、それはとてもない間違いだったと気づいたのは、彼女が、私の説教の内容ではなく、その些細な動きの中に、私自身の抱えていた問題を的確につけてきたからなのだ。説教とは、み言葉を語るとは、そして神の言葉を取りつぐとは、この基本中の基本がいつのまにか自分の中で曖昧模糊となってしまう、ついには自分の知恵や経験、学びの

黙想

主なる神よ、あなたのような者はなく、
またあなたのほかに神はありません。

サム下7:22

主幹牧師 榎本 恵

言葉こそが、人々を説得できるように勘違いしてしまう。そこでは、聖書朗読は、中休みのようになつてしまつていたのだ。彼女は見事にそれを言い当てたのだから恐ろしい。私たちの何気ない仕草や表情こそが、実は最も雄弁に語っていることを思い知った。確かに、聖書の言葉は人間の書いたものであり、それ自体を神格化し、一字一句読み間違えることも許さないということは、間違っているだろう。

(平野克己著「説教を知る」より)「説教黙想セミナー」の主宰者平野克己牧師の言葉である。この言葉は、シンプルであるがゆえに、大変重い。私たちが、その語ること、どれほどまでに「神の言葉」として受け止めているのか。語るものにも聞くものにもそれが問われているのだ。晴れてイスラエルの王となったダビデ。彼のそこへ至るまでの道筋は決して平坦の易い道ではなかった。主君サ

ウに命を狙われ、荒れ野に逃亡し、敵の手の中に隠れ、サウル王の死後、周辺の国々と戦い、都をエルサレムに定め、神の箱を移し、ようやく掴んだ王の地位。しかしその権威も、3度の油注ぎ―預言者サムエルによって(サム上16:13)、ユダの人々によって(サム下2:4)、イスラエルの人々によって(サム下5:3)―という段階をへて、ダビデは王となったのだ。その彼が、預言者ナタンを通して、神の声を聞く。「あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」(サム下7:16)―

お前が私(神)の住む家を建てるのではない、私(神)がお前の家を堅く立てるのだ。この言葉は、どれほどダビデの心を打っただろうか。「主なる神よ、あなたのような者はなく、またあなたのほかに神はありません。」(サム下7:22)神の約束の言葉を聞いた者の心から込み上げてくる喜びの祈り。それが、なんの説いたものでもない、神の言葉を聞いたものの応答なのだ。

友よ、ダビデの裔、主イエスキリストの救いに入れられた私たちも、神の言葉にこそ心の底から喜ぼう。牧師も、信徒も共に、この神の言葉の前にひれ伏していこうよ。私たちもまた、神の言葉を聴く者なのだから。

ウルに命を狙われ、荒れ野に逃亡し、敵の手の中に隠れ、サウル王の死後、周辺の国々と戦い、都をエルサレムに定め、神の箱を移し、ようやく掴んだ王の地位。しかしその権威も、3度の油注ぎ―預言者サムエルによって(サム上16:13)、ユダの人々によって(サム下2:4)、イスラエルの人々によって(サム下5:3)―という段階をへて、ダビデは王となったのだ。その彼が、預言者ナタンを通して、神の声を聞く。「あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」(サム下7:16)―

お前が私(神)の住む家を建てるのではない、私(神)がお前の家を堅く立てるのだ。この言葉は、どれほどダビデの心を打っただろうか。「主なる神よ、あなたのような者はなく、またあなたのほかに神はありません。」(サム下7:22)神の約束の言葉を聞いた者の心から込み上げてくる喜びの祈り。それが、なんの説いたものでもない、神の言葉を聞いたものの応答なのだ。

第36回 アライアンス教会アシラム

「神の国」

ルカによる福音書

杉浦 17
光雄 20
章

今年のアシラムは日本から榎本恵師を迎えて、いつもの施設で行わ



Taboão da Serra - SP, Março de 2019

れました。小高い丘の上にある緑に囲まれた静かな場所で、私たちは聖書を読み、美味しい食事をいただき、すべてを神様からの特別な贈り物として賜った三日間でした。

今年のプログラムは、はじめての取り組みとして、教会の青少年たちが企画から奉仕までのすべてを担当しました。彼らはみんなで力をあわせ、本当に良くやつてくださいました。101名の参加者全員が互いに名前前で呼ぶことができるように、各自名札をつけてもらいました。その札の裏にアシラムのプログラムが印刷されていました。

このようにして私たちは、この素晴らしい目的を果たすために、楽しく手を差し伸べ、互いに支え合いました。神様のお約束を通して、私たちは今日の自分をみつめることができ、いつも神に忠実であるなら、どんな小さなことさえイエス様は配慮してくださるので、私たちのアシラムも今日に至るまで続けられているのではないかと思います。

私は各ファミリーから選ばれた兄弟姉妹の証しを聞きながら、一人ひとりがそれぞれの生活の中で、強く聖霊に満たされている存在であることを感じました。どういう時に何をすべきか、どうすればよいかを悩む必要はありませんが、神様が聖書の言葉を通して、私たちのいのちを与えてくださっていることをもう一度教えられ、この時間を決してむだにしないと思いました。

このアシラム開催の間、イエス様ご自身が真ん中に立つて私たちに語ってくださいたことを感謝します。

日常生活の様々な営みを離れ、日々の生活の中では気がつかない日常の様々な営みを離れ、日々の生活

た事を、開心の時、心に示され、平安が与えられて感謝した者の二人です。

三日間はあつという間に過ぎて、祈りの山を下りる日になりました。みんなの嬉しそうな顔を見ながら、これは聖書の言葉がそれぞれに語りかけ、それを心に受け止めるに至ったその喜びだと感じさせられました。

連鎖祈禱は、各自30分間の祈りの時を持ち、全体で48時間続けました。隠れた部屋の

中で、感謝、願いなど、一人ひとりどのような祈りをしたのでしょいか、神様だけが知っておられます。神様はこのような祈りを受け入れてくださっているのです。私たちのアシラム運動が続けられているのではないのでしょうか。

聖霊様によって、これまでのアライアンス教会のアシラム運動のともしびが、これからも消されないうつまでも続くように祈ります。

(ルージラモス・アライアンス教会員)

第16回 ブラジル・アシラムに参加して

谷口千賀子

私の信仰生活は本当に浅く、三年前から教会に出席、御言葉に聞き教えられ楽しく毎日を送りながらも、何か神様との間に垣根というか堀のようなものを感じ、祈つても主に近づけないもどかしさを感じていました。息子夫婦との関係、冷たい息子夫婦の仕打ち、どうして彼らはこんなに悲しい目にあわせるのだらうと恨み、会話する事も無くなり、用事以外は話さなくなっていました。しかし、今日アシラムに参加し、榎本師の温かく、ユーモアあふれるメッセージを聞いて

ご献金者
敬称略
2月分
(クリスマス、
誕生感謝
献金含む)
金山 良雄
無 名 氏
榎本 和子
橋本るつ子
阪神
ミニアシラム
明石シオン
越智 千歳
上柿 京子
香川 孝子
佐賀 昭子
植松貴美子
正岡リツコ
山田喜久子
吉田忠美子
吉川 禮子
(1月分含む)
松田 公子
石川 友子
船本 滋幸
チャイム
コンサート
(池田
チャイムの会)
福岡聖書教室
福岡久仁子
山崎 恵子
広野祈りの家
和子
徳瀬 南子
安仲 哲造
中谷 敏彦
岡山 敦彦
渡辺美寿子
常任運営委員会
足立タツ子
小林喜久子
倉田 妙子
金田 健一
金田 和子
無 名 氏
同志社中学校・
高等学校代表
木村 良巳
ちいば教師
記念チャペル

タツ子
星耕 明古
齋藤 智子
稲荷 二郎
山口 澄子
持田 静代
大泉 俊夫
村瀬 勝子
平林 直子
森山 智恵
加藤 智恵
カフェいろいろ
聖書入門講座
大山 悠子
松平千鶴子



いるうちに、色々な御言葉が思い浮かんできました。息子たちでなく、私でした。*自分が優しくしてもらいたければ、私が人に優しくすべき。「自分を愛するように、隣人を愛せよ」*恨む心。「呪いの心は自分に帰って来、祝福は遠くへ離れ去ってしまう」*私がこんなに心配し、助けてやっているのに、「高ぶりの心」「仕えられるより仕える者になりなさい」。そして今日のメッセージ

『初愛を拾う』

〜ともにいる主を証しする〜
(教会便りより)

ジで強く感じた私の間違いは「聖書の読み方」でした。御言葉の二つが自分に何を教えるかとしておられるかを考えず、ただ小説を読むように読んでいました。もう一つは、御言葉を他人を裁くために使ってはならないこと。御言葉で話せば相手は反論しにくくなります。自分自身のこれらの罪が、

神様との間の障害になっていた事。聖書を読みながら、少しも心に刻み、蓄えていなかった事に気付かされました。今日からは、御言葉の二つを私の宝物として心に蓄えていく事、そしてこの小さい者のために悔い改めの道を開いて下さっている事を神様に心から感謝します。(サンパウロ福音教会員)

昨年11月、常任運営委員の引原兄と共に、篠原牧師(長野県須坂聖書教会(引原兄ご次男の所属教会))が宿泊されました。その時感じられた事を教会月報にお書き下さいましたので、一部を皆様に紹介させていただきます。

須坂 哲二牧師『ちいろば』を著した榎本保郎牧師がここにいるかと錯覚するほど

であった。「住まいも決まらないまま、バスに乗り込み、泣きながら窓から眺めたのよ」。奥様の和子先生と長女のこと、つ子先生が昨日のことのように笑いながら話す。「それは違うんだ」と榎本先生が割り込んで来そうであった。素晴らしいひと時を過ごすも、ふと我に返る。「いったい私はどうしてここに？」アシユラムセンター内の和風礼拝堂を見学した

後、アンナ折りの家に泊まった。風呂に浸かり、ベッドで横になりながら、予定外の近江まで来た理由を考えていた。翌朝、まだ日が昇る前に起床し、早天祈祷会に出席。讚美し、聖書箇所を輪読する。その後、各自が祈り心で黙読する(10分位)。次に心に留まった聖書のことばを順に短く分かち合い、続けて順番に短く祈る。これは、「静思の時」ではないか。「みことばの黙想」「ディボーション」とも呼ばれる。アシユラムというインド由来の言葉が使われてい



早天祈祷会後のるっちゃんるんるん福音食堂。
右から引原兄、篠原牧師

るのでこれまで敬遠していたが、榎本先生が晩年に取り組んでいたアシユラム運動とは、今では広く習慣にされている、聖書から日々恵みを受けるとるキリスト者の霊性運動であった。ちいろば先生は最後まで先見の明のある牧師だったのだ。妙に感心し、安心した。敬愛する故榎本保郎家の皆さまと静思の時をもち、何か重い荷が下り、溶けて流れ出した気がした。「むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活の全てにおいて聖なる者となりなさい」(1ペテロ1:15)使徒ペテロが、アジアに散らされた諸教会に向けて語った。この歴史の事実をわきまえつつ、神から自分への語りかけに気づき、受け止める。これが静思の祈りの醍醐味である。これまでも聖書に親しみ、また向き合い闘ってきた。神の言葉である説教の奉仕

和恵子
萬里子
センター
聖書教室
和子
省介
廣子
宜和
昌代
野村
鹿屋
キリスト教会
聖大浜
キリスト教会
米田 康子
吉田すみえ
榎本 康子
河村 琢郎
榎本 光太
菅原 博
65口
¥681,654

ヨセフ基金
(義援金)
無名氏
年頭アシユラム
常任運営委員会
米田 康子
吉田すみえ
ちいろば
アッちゃん・
シユラム君
6口
¥29,570

新修道場
のために
たびんちゅう牧師
1口

会堂改築の
のために
たびんちゅう牧師
1口

るっちゃん
るんるん福音食堂
のために
メズエット
おばさん
1口

合計
73口
¥716,224

尊いご基金、
ご物品、お祈り、
お便り、電話
メッセージ、
そして、共に
アッシュラム!
感謝いたします

に仕えた。だが、静思の時には少し距離を置いてきた。以前、静思を進める月刊誌の仕事をしていた頃に、あまりに個人的に聖書を読む方々が、かえって神の教会と信仰に、害を与えている。静思は聖書を用いて心を養う良き手段である。が、信仰者の霊性を担う一部分にすぎない。静思一本で万能な包丁とはならない。正しい聖書解釈と教理を見失うと個人も教会も異端化する恐れがある。故にしっかりと学んだ牧師たちはその危険を知っている。で、説教や学びに正しい解釈・教理が入ることを大切にしている。ただ、それだけだと黄身白身のない卵の殻のような。教理と霊性は互いを必要とし合う骨と肉の関係である。今回、近江で経験したことは、この霊性の回復であった。みことばを味わい、生きた神の語りかけをつかみ取る感覚。神の教会が正しい

沖縄平和巡礼の旅 2019

主の平和

沖縄平和巡礼の旅、今年もご案内致します。アメリカのデューク大学にある、「和解センター」はこう結論付けています。「和解とは理論でも、達成結果でも、テクニクでも、イベントでもありません。和解とは旅のことです。」と。

私たちアシュラムセンターが、続けてきたこの巡礼の旅も、「あらゆるものの垣根を超える、緊密に編まれた霊の交わり」というアシュラムの和解でありたいと願っているのです。さあ、旅に出かけましょう。そしてそこで、出会うのです。旅の途上でしか出会えない方に。

どうか、ご参加ください。

榎本 恵(アシュラムセンター主幹牧師)

教え(教理)と、命(霊性)を通わせ成長するために必要なバランス。私の内に埋もれていた「初めの愛」を拾うことができた。「・・・全てにおいて聖なる者となりなさい」(1ペテロ1:15)。両方伴って聖とされた

(須坂聖書教会)

【日程】 2019年6月20日(木) 昼12:30 那覇空港集合 ~ 23日(日) 昼

【定員】 10名

【費用】 60,000円 ※3泊ホテル代、レンタカー、伊江島フェリー代金、食事、入館料など含む
※航空券は含まれません。各自購入願います。

【主なプログラム】

1日目(20日(木)) 12:30 那覇空港集合 サマリア人病院デナイトケア文芸教室にて交流

2日目(21日(金)) 南部戦跡、守魂の塔(第2外科壕跡) 沖縄の方々と清掃、慰霊祭
沖縄聖書教室

3日目(22日(土)) 伊江島 わびあいの里、反戦平和資料館ヌチドゥタカラの家

4日目(23日(日)) サマリア人伝道所 主日礼拝、昼食後解散

★申し込みお問い合わせは アシュラムセンター 榎本康子 080-4390-1519 まで



第16回 国際正義平和アシュラム in札幌

主 題: 大地に響け、平和の調べ

主題聖句: 「いと高きところには栄光、神にあれ、

地には平和、御心に適う人にあれ。」 ルカ2:14

日 時: 9月30日(月)pm4:00~10月2日(水) 昼

場 所: メイン会場(宿泊) シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロ
コンサート(10/1) 日本基督教団北光教会

特別講師: ジュランジール柳原一蔵牧師

(ブラジルアライアンス教団牧師/alliance world fellowship president)

キャロルサック女史

(日本福音ルーテル教団宣教師/リラブレカリア祈りの堅琴主宰者)

《平和スタディーツアー》

日時: 10月2日(水) 昼12:00~10月4日(金) pm1:00

宿泊: シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロ

1日目 サッポロピリカコタンでアイヌ民族のみなさんと交流
芸術の森視察

2日目 小樽観光 余市高校、リタ幼稚園見学

3日目 支笏湖経由で千歳空港へ

※会費など詳しいことは決まり次第お知らせします。



あ と が き

無事に、海外宣教から帰ってきた。皆様のお祈り、お支えに感謝! 今年もまた、台湾、ブラジル、ニューヨークでのアシュラムを行ってきた。ブラジルでは、サンパウロでの超教派の1日アシュラムと36回目となるブラジルアライアンス教会のアシュラム、そして今回初めて開かれたブラジリアの2泊3日のアシュラム集會に奉仕してきた。(ホームページにその様子がビデオでできているので見ていただけたら幸いです(またニューヨークでは、JAUC(日米合同教会)での、礼拝奉仕、ニュージャージー日本語教会での集會が開かれた。そして今年の夏には、ついにJAUCの修養会で、アシュラムを取り入れた集會が計画されている。海外のアシュラム集會のために、祈りと支えを、私は熱望する。遠い国の知らない人々ではなく、私たちの同胞であり、兄弟姉妹なのだ。このことがきっと、私たち日本に住むキリスト者にとっても大きな恵となって返ってくると私は信じている。(恵)

主幹牧師の2019年ビジョン(1)

わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。

創世記9：1

「何をしなければならないか」ということだけしか、考えていないキリスト者があります。立派なようですが、福音を持っている人とは言えません。キリスト教は、「何をしなければならないか」にかかっているのではなく、「キリストが何をしてくさるか」ということへの信頼にかかっているのです。「キリストが何をしてくさるか」ということが信じられなかったら、それはもはや、福音ではなく、キリスト教でもありません。何かをしなければならぬという焦燥、何かをしたいという傲慢一、そこには、福音のあかしはなく、キリストの臨在の場にたてよう神の平安もないはずで。福音に生きよ。

金田福一著

「日々の糧365日主にお会いするまで」より

金田福一先生は、長く四国の三島真光教会で牧会をされ、1992年に召天された牧師です。私たちのアシュラム集会にも度々参加され、その警咳に接する機会を持たれた方も大勢おられることでしょう。また先生は、この「日々の糧」を始め多くの書物を遺されたので、そこで先生の生き様に触れられた方も多いことと思います。残念ながら私自身は、直接先生とお会いしたことはありませんが、今年6月に計画されている「金田福一牧師記念四国アシュラム」を行うため、昨年7月に三島真光教会を訪問し、福一牧師のご長男建一兄にお会いしてきました。

金田先生の中に一貫しているのは、主が「してくさること」を信じて生きよということに尽きるのではないかと、私は思います。これは簡単なようで、実際は大変難しいことです。私たちはいつも、自分の中の偏った価値基準で決めた「しなければならないこと」にがんじがらめになったり、自分のしたいことを神の意思とし、その後押しを神に願ったりすることの多いものではないでしょうか。

しかしそれは、福音ではないと先生は喝破されるのです。「病気になったらいやして下さい」と言い、金に困れば「お金をください」と言い、

家庭がごたごたすれば、「幸せにして下さい」と祈る、その程度の信仰でどうするのですか。生きるとは、克服することではありませんか。耐える事ではありませんか。あなたが奮い立って、そうするのではない。イエスさまが、生きておられるということです。」福音の証とは、その困難の只中で、しかし神の平安を見出すことであると言うのです。また別の箇所、先生はこんなことも書いておられます。「病苦との戦いを、悪魔との戦いと告白した伝道者がありました。しかし、その人の戦いは、実は、病苦をも神の恵みとして、感謝して受け取ることでできない、おのれ自らの戦いであつたと思います。」ここで語られた伝道者が誰であつたのか、具体的にはわかりません。しかし、私は、治ることの無い肝硬変を患いながらも、その中で神に信頼し、まっすぐに伝道し続けた榎本保郎牧師のことを思い起こしたのです。

さてここまで書き進めながら、突然の訃報に心が動揺しています。2018年12月23日、ちょうどクリスマス礼拝のその晩に、私たちの敬愛する後宮俊夫牧師が召天されたとの知らせが届いたのです。96歳の生涯を、先生は眠るように静かに閉じられました。また一人、私たちは偉大な信仰の先達を失いました。それはまことに悲しいことであり、また寂しく辛いことであります。受け入れがたいことであり、承服できず、またこれからどうしようかと不安を覚える時であります。けれども、そうであるからこそ、この「してくさる」主を信じる時なのであります。

(続く)



1 ファミリーは、年頭アシュラム初参加の方々
前列中央は講師の岡山敦彦師
左 和子母、信仰現役93歳

「熱のある身のアイスノン 変えくるるナースの心よ ほどよく冷えし」
小林佳子師、4月病室にて(前常任運営委員、三重アシュラム実行委員、今回は療養中のため祈りでの参加)

5月の聖書教室など

10(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00)	0748-33-4030 アシュラムセンター
11(土)	広野祈りの家 (兵庫県三木市志染 PM1:00)	0794-85-1147 猪瀬和子姉
13(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)	092-607-8251 樋口栄子姉
15(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	075-643-2476 みんなのカフェちいろば
19(日)	ちいろば牧師記念チャペル礼拝・愛餐会 (PM5:00)	0748-33-4030 アシュラムセンター
21(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)	0748-33-4030 アシュラムセンター
23(木)	新さん祈りの家(滋賀県湖南市、新 千重子姉宅 AM10:30)	
24(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)	0748-33-4030 アシュラムセンター
27(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)	0748-33-4030 アシュラムセンター
28(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)	0748-33-4030 アシュラムセンター
28(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠堂チャペル PM2:30)	0748-33-4030 アシュラムセンター
29(水)	ちいろば祈りの家(町田市 黒見妙子姉 PM1:00)	

5月のアシュラムなど

2(木) 4(土)	第27回 秋田・盛岡アシュラム 奉仕者 櫻本恵師	019-636-0285 角谷晋次師
2(木) 4(土)	第39回 関東青年アシュラム 奉仕者 溝口勝幸師	048-768-3001 森戸敬子姉
17(金) 18(土)	第6回 北陸・金沢アシュラム 奉仕者 櫻本恵師	076-241-4409 石田哲夫兄
25(土)	第19回 愛知一日アシュラム 奉仕者 大門義和師	0562-47-0528 溝口勝幸師

6月のアシュラム予定

1(土)	第18回 新潟一日アシュラム
3(月) 4(火)	第13回 那須アシュラム
4(火)	第9回 札幌一日アシュラム
4(火) 6(木)	第44回 教職アシュラム
15(土)	第1回 四国アシュラム ※詳細は案内チラシで
13(木) 15(土)	第45回 加太アシュラム
20(木) 23(日)	たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅・沖縄聖書教室(21(金))

2019年7月以降のアシュラム予定

7月15日	福岡一日アシュラム
9月9~11日	関東アシュラム
9月20~21日	新潟アシュラム
9月30~10月2日	第16回 国際正義平和アシュラム
10月7~8日	第43回 山陰アシュラム
10月9~10~11日	第7回 日光オリーブの里アシュラム
10月11~12日	第20回 愛知一泊アシュラム
10月22日	第23回 埼玉一日アシュラム
11月14~15日	第43回 阪神アシュラム
11月19~21日	第44回 京浜アシュラム

みことば

元アシュラムセンター代表・常任運営委員長
元日本キリスト教団甲西伝道所牧師
後宮 俊夫 師(2018.12.23召天 96歳)

「祈っていないさい」(前編)

ルカ福音書22:39~46
近頃はキリスト教の集まりで祈らなければならないと言う言葉をよく聞くようになった。今更何をと聞き直られるようなことかもしれないが、ここ数年前まではまれにしかこの言葉を聞かなかったことは事実である。それがよく聞かれるようになったのは結構なことではある。然し、祈らなければならないと言うことと、祈ることは別である。どれほど「祈りは大切である、祈らなければならない」と言ったところで祈らなければ何にもならないことである。

よく似たことばで「祈りも大切である」と調子を合わせる人がある。似たように聞こえるが、この「も」一字で全く認識している事実が異なり、なされる祈りが全く異なるのである。祈りは私達の信仰生活に於て、他の何ものと並べて、「も」で称せられるようなものではない。私たちの全てであって、祈りなしでは私たちはキリストにあることはできない。私たちは罪人であり、塵灰に等しいもので、その中に何らかの善なるものを存しない。ただ祈りによって、主の力を受けてのみ、御旨にかなう歩みをなし得る存在なのである。

「祈りも大切である」と言う人は、祈ってばかりいないで、社会的な行動に出なくてはならないと言うことを考えているのであろう。はっきり言えば、その人は祈っていない人である。「いや、私は祈っている」と抗弁されるかも知れない。然し、ゲッセマネに於て私たちの主が祈られたように祈っているであろうか。真実な祈りが捧げられたとき、それは必ず行動を起こさせる。真実な祈りは私たちを行動へと駆り立てる。若し、祈ってばかりいて行動が伴わないと言うことがあれば、それはその人の祈りがいい加減なものであるからと言わざるを得ない。

1963年11月出版「ガリラヤ」
(日本キリスト教団世光教会「祈りの集い」の機関紙)より



保郎師の親友、林 恵兄の娘様、羊子姉ご来訪。(保郎師ご葬儀以来42年ぶり!)



春の新さん祈りの家は花盛り!